

平成29年度 自己評価結果報告書

学校名

成田市立遠山小学校

1 学校教育目標

育て駒っ子 かしく やさしく 健やかに
～ふるさとを愛し 未来をたくましく切り拓く～

2 本年度の重点化された具体的な目標

①学習指導	・ 基礎的な知識・技能を習得し、学力の向上を図る。 ・ 体験的活動の工夫により、自ら課題を発見し解決する学習の取組に努める。 (「主体的・対話的で深い学び」の実現)
②総合的な学習の時間	・ 学校林「駒の森」を活用した環境教育を行う。
③道徳教育	・ 道徳の時間での指導の充実に努める。
④特別活動	・ 学校行事などの集団活動を通して、協力し合い、自ら進んでより良い学校生活を築こうとする態度育成する。
⑤生徒指導	・ 基本的な生活習慣の指導を徹底 (早寝早起き朝ごはん、人の話は静かに聞く、心のかもった挨拶)
⑥研修の充実に努める	・ 児童の実態や保護者・地域の期待を踏まえ、学力の向上を図る研修の充実に努め
⑦家庭・地域との協力・連携	・ 家庭学習の習慣化を図る
⑧体力向上と健康・安全指導	・ 安全指導の充実に努める。
⑨学校人権教育	・ 全教育活動を通して、「差別をしない、差別を赦さない児童」を育てる。
⑩施設・設備の活用保全と環境教育	・ 児童が自主的に美化に努める実践的な態度を育てる。

3 自己評価結果 ※A(適切) B(ほぼ適切) C(やや不適切) D(不適切)

分野・領域	評価項目	評価の指標	取組状況	改善の方策
学校運営 教育課程	保: 児童は学校が楽しいと感じているか	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A	「学校が楽しい」という児童、保護者が多く高評価をではあるが、まだ、6%不満がある。今後も児童、保護者の声に耳を傾け、不断の努力と変革を行っていくことでニーズに応えられるようにしていかなければならない。
	保: 行事の時期や内容は、学校や児童の実態を考慮して実施されているか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A	
	児: 遠山小は、明るく楽しい学校だと思いますか。	児童の96%から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 学校行事は適切に行われていると共に充実しているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
学習指導	保: 授業はきめ細かい学習指導に努めているか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A	「担任の授業の教え方」についての高評価に甘えることなく「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業改善を行っていく必要がある。特にICT機器の活用を進め、視覚に訴える授業を推進していきたい。
	保: 学習に進んで取り組む子に育っているか。	保護者の85%から「適切である」との支持を得た。	B	
	児: 担任の先生の教え方はわかりやすく楽しいか。	児童の92%から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 毎時間学習問題を児童に提示しているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
	職: 児童の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を行っているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
生徒指導	保: 児童が困っていたり、悩んでいたるときは、先生方が親身になって対応してくれるか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A	児童の相談に十分耳を傾けることができず、不満を持っている児童がいる。忙しさに甘えることなく真摯に児童と向き合う教師集団であることを推進する。また、生活アンケートを定期的実施し、児童の声を拾い出すことを今後も推進する。
	児: 担任の先生は、休み時間に一緒に遊んだり、おしゃべりをしてくれたりするか。	児童の94%から「適切である」との支持を得た。	A	
	児: 担任の先生は、困った時にいっしょけんめい相談ののってくれるか。	児童の83%から「適切である」との支持を得た。	B	
	職: 基本的な生活習慣を身に付けさせるための工夫がなされているか。	保護者の88%から適切であるとの支持を得た。	B	
	職: 児童のことで職員が共通理解し、全体で取り組む体制が整備されているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
道徳 人権教育	保: 相手の立場を考え、協力する子に育っていると思うか。	保護者の94%から「適切である」との支持を得た。	A	道徳の授業が楽しいという児童は、約67%である。決して高い数値ではないので、今後も魅力ある道徳授業を提供できるよう研修を深めていく。
	保: 自然を愛し、命を大切に育っていると思うか。	保護者の90%から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 学校人権教育の充実に努めているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
保健 安全管理	保: 安全面での配慮がなされており、安心して生活できる学校となっているか。	保護者の98%から「適切である」との支持を得た。	A	保護者の評価では、運動に関してまだ十分ではないという評価をいただいている。外遊びを推奨するとともにYOU遊スポーツランキングに挑戦させるなどして運動に親しませていきたい。
	保: 運動に親しみ、進んで体を鍛える子に育っているか。	保護者の79%から「適切である」との支持を得た。	B	
	職: 施設設備の活用及びその保全の充実に努めているか。	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	
保護者・地域 との関わり	保: 学校便りや学校公開、行事への参加等で学校の様子を知ることができる。	保護者の94%から適切であるとの支持を得た。	A	学校からの情報発信については、今後も適切に行っていく。現在の地域人材活用を発展させるため、区長への働きかけ等を行っていく必要がある。
	保: PTAの行事や活動などにより、保護者と学校が連携した取組が見られるか。	保護者の96%から「適切である」との支持を得た。	A	
	職: 外部人材を活用した授業や行事が充実したか。(各教科・素敵な先輩シリーズ)	教員の100%が「十分」「概ね十分」と考えている。	A	

4 自己評価の結果の分析

- 職員が一致協力して学習指導・生徒指導等に取り組む事ができた。
- 保護者や地域から温かい支援を受けているものの、複雑な家庭環境によって生活習慣の乱れている児童や特別な支援を要する児童への対応を引き続き継続していく。
- 行事の精選を進め、余裕のある教育課程を編成していく必要がある。保護者への情報発信を適切に行い、理解を求めていくことを大切にしていける必要がある。